

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                        |     |        |     |
|----------------|------------------------|-----|--------|-----|
| ○事業所名          | 放課後等デイサービス アムール        |     |        |     |
| ○保護者評価実施期間     | 2025年8月5日 ～ 2025年8月31日 |     |        |     |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                 | 4人  | (回答者数) | 3人  |
| ○従業者評価実施期間     | 2025年9月1日 ～ 2025年9月12日 |     |        |     |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                 | 17人 | (回答者数) | 17人 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年9月12日             |     |        |     |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること                          | 工夫していることや意識的に行っている取組等                                         | さらに充実を図るための取組等                                             |
|---|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 1 | 小学校生活のスタートを支える環境<br>1年生が安心して放課後を過ごせる居場所として、生活リズムや学習習慣の定着をサポートできている。 | 1年生に合わせた活動設定<br>集中できる時間の長さや体力に配慮し、短時間で達成感を得られる活動を工夫している。      | 今後の学年進行に備えたプログラム整備<br>2年生以降の利用を見据え、学習支援や集団活動の幅を広げていく。      |
| 2 | 家庭や学校との連携<br>宿題や学校での様子を踏まえ、保護者・学校と情報共有を行いながら子どもの成長を見守っている。          | 安心できる関わり<br>小学校生活に慣れる時期だからこそ、気持ちを受け止め、安心して過ごせる雰囲気づくりを大切にしている。 | 社会性を育む活動の強化<br>学年が上がるにつれて必要となる協力・自己表現・感情調整のスキルを育てる活動を導入する。 |
| 3 | 遊びと学びの両立<br>遊びを通じて社会性を育みつつ、学習にも取り組む時間を設け、バランスの取れた放課後の過ごし方を提供している。   | 日常生活スキルのサポート<br>着替えや持ち物管理、宿題への取り組みなど、生活面の自立につながる活動を意識している。    | 保護者との連携強化<br>子どもの成長を家庭と共有し、家庭と一貫したサポートができるよう工夫する。          |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること                  | 事業所として考えている課題の要因等                                             | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                     |
|---|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 1 | 対象年齢の偏り<br>現在は1年生のみの利用であり、活動が低学年向けに偏っている。                   | 利用児童の学年構成の限定<br>現段階では1年生に特化した運営となっており、発達段階の多様性に対応する体制が整っていない。 | 高学年を見据えた活動計画の整備<br>進学に伴う学習支援や生活スキル強化に対応できるよう、プログラムを開発する。 |
| 2 | 高学年への対応準備不足<br>今後の利用拡大を見据えた高学年向けの学習支援・社会性育成プログラムが十分に整っていない。 | 職員構成の偏り<br>保育士が多いため、学習支援や高学年への発達課題に専門的に対応できる体制が不足している。        | 学習支援の専門性強化<br>外部専門家との連携や研修を通じて、学習支援に対応できるスキルを高める。        |
| 3 | 情報共有の正確性の課題<br>関わる職員が多いため、記録や伝達に差が生じる場合がある。                 | 情報伝達の複雑化<br>職員数が多く、情報が正確かつ均等に共有されにくい状況がある。                    | 情報共有の仕組み改善<br>記録の統一やICTツールの活用、定例ミーティングを行い、情報の正確な共有を実現する。 |